

東地協ニュース 2016.12 第31号



協会活動について

(一社)東京都地質調査業協会
広報委員長 亀井 厚志

本年5月に開催されました第32回通常総会において、転勤により勇退された神馬前委員長の後任として広報委員長を拝命いたしました。就任して半年以上過ぎましたが、協会活動の参加は今回が初めてなので、協会関係者の方々にはご迷惑をおかけすることがあると思いますが、少しでもお役に立てるよう協会活動に取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

東北地方に甚大な被害を及ぼした東日本大震災から5年余りが経過した現在、本格的な復興が進められていますが、その後も日本の広範囲で自然災害が発生しております。九州地方で発生した熊本地震では、熊本県や大分県で大規模な地盤災害を及ぼし、東北地方や北海道を襲った台風では、記録的な豪雨による河川の氾濫や土砂崩れにより多大な被害が発生するなど自然災害のリスクが増大しております。このため、社会資本整備の重点施策である国土強靱化、防災・減災対策の推進に向け、地質調査業界に求められる役割が重要になってきています。

広報委員会では春季と秋季の年2回、協会報や協会パンフレット、技術ノートなどを配布して協会のPR活動を行なっています。

今年は新たな取り組みとして、神馬前委員長にご尽力いただき「東京都建設局との意見交換会」を10月11日に開催しました。意見交換会は協会からの要望や提案を直接訴える絶好の機会になるので、要望事項は総務委員、広報委員、技術委員、それぞれから委員を募り、WGでの話し合いを繰り返し決定しました。東京都の発注は最低制限価格等の低価格入札対策も取られておらず、極端な低価格での落札も見受けられます。平成26年度に改正された品確法において明記された担い手の育成・確保のための適正な利潤が確保できる入札制度とはなっていないことから、以下を要望事項としました。

- I 品格法に基づく低価格入札の防止対策
- II 積算基準の適正な運用と設計図書の明確化
- III 優良業務等表彰制度の改善

初めての意見交換会は、東京都建設局から安部企画担当部長他7名、東京地質調査業協会から網代会長他7名、計16名の出席者により開催し、協会と建設局の各々の提案議題について、活発な意見交換を行いました。協会及び協会員による「防災・減災」への取り組みは十分アピールできたと実感しております。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市基盤整備を効果的に進めるためには、地質調査の品質確保が重要であり、地盤情報に精通した地質技術者がこれからますます重要な役割を担っていくと考えます。今後も「東京都建設局との意見交換会」を継続することが、発注者のパートナーとしての役割を遂行して行くため非常に必要と考えます。

● 会議報告等

○ 理 事 会

1. 平成 28 年度 第 4 回

日時：平成 28 年 7 月 20 日（水）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 東京都との意見交換会について
- (3) 平成 29 年度東京都予算要望ヒアリングについて
- (4) 足場の組立て、解体に関する特別教育(7 月 28 日)の件
- (5) 土壌汚染調査技術管理者講習会について
- (6) 講習会企画(技術ノートの利用)について
- (7) 広報委員会関係
 - 1) 第 1 回委員会報告（7 月 5 日）
 - 2) 意見交換会 WG の資料収集の件
- (8) 技術委員会関係
 - 1) 第 4 回委員会報告（7 月 6 日）
 - 2) 技術ノート No. 49「東京国際空港」について
- (9) 地盤情報に関する意見聴取について
- (10) 地質調査業の動向について
- (11) ボーリング安全衛生特別教育講習会(秋期)について
- (12) 斜面の点検者に対する安全教育実施要領について
- (13) 「日本地球惑星科学連合 2016 年大会」の後援について
- (14) 東京都・災害協定 実施体制、連絡体制の更新について
- (15) 平成 28 年度防災展示について
- (16) 暑中広告掲載(公共事業展望特集・建通新聞社)について
- (17) 正味財産(収支)報告（平成 28 年 5 月～6 月）
- (18) 関東協会・平成 28 年度第 2 回理事会 報告

2. 平成 28 年度 第 5 回

日時：平成 28 年 9 月 2 日（金）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 29 年度東京都予算等の要望について
- (3) 意見交換会・要望事項（東京都建設局）について
- (4) 協会事業運営について
- (5) 協会名の英語表記について
Tokyo Geotechnical Consultants Association
- (6) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース第 31 号について
- (7) 地盤環境技術研究センター(GETReC)との覚書について
- (8) 足場の組立て、解体に関する特別教育 報告(7 月 28 日)
- (9) 東京臨海広域防災公園 防災イベント 報告
(8 月 27 日～28 日)

- (10) 東京都・葛飾区・墨田区合同総合防災訓練 防災展示（9 月 4 日・都立水元公園）について
- (11) 平成 28 年度東京都防災展について
- (12) ボーリング安全衛生特別教育講習会(秋期)について
- (13) 災害支援体制(建設局)のアンケート集計結果
- (14) 正味財産(収支)報告（平成 28 年 7 月～8 月）
- (15) 「JpGU-AGU 共同大会 2017」後援依頼について
- (16) 受注動向調査表

3. 平成 28 年度 第 6 回

日時：平成 28 年 11 月 24 日（木）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 28 年度事業・正味財産(収支)見込表
- (3) 協会の事業運営について
- (4) 災害対策セミナー(東京都・3 団体共催)実施について
- (5) 総務委員会関係
 - 1) 委員の交代について
 - 2) 委員の退任について
 - 3) 東地協ニュース第 31 号について
- (6) 広報委員会関係
 - 1) 第 2 回委員会報告（11 月 16 日）
- (7) 技術委員会関係
 - 1) 第 7 回委員会報告（11 月 9 日）
- (8) 東京都建設局との意見交換会 報告（10 月 11 日）
- (9) 東京都・葛飾区・墨田区合同総合防災訓練 報告
(都立水元公園 防災展示, 9 月 4 日)
- (10) 東京都 防災展示について（3 月予定）
- (11) 平成 29 年度東京都予算要望関連 報告
自民党〔要望書提出〕 8 月 31 日
民進党〔ヒアリング〕 9 月 6 日
- (12) ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 報告
(秋期・9 月 30 日, 10 月 1 日)
- (13) 都議会自由民主党 幹事長就任祝賀会（10 月 26 日）
- (14) 地質調査業の動向について
- (15) 関東協会・平成 28 年度意見交換会(関東地整)について
- (16) 受注動向調査表
- (17) 全地連・第 2 回代表理事・業務執行理事連絡会議 報告

4. 次回理事会開催予定

日時：平成 29 年 2 月 2 日（木） 予定

☆ トピックス(協会行事紹介)

◎ 足場の組立て、解体に関する特別教育 (7月28日)

労働災害撲滅に向けて作業安全のための活動・意識高揚が叫ばれておりますが、作業現場では高所からの転落事故が後を絶たない状況が続いています。

そのような中で、足場からの墜落防止措置を強化した労働安全規則の省令改正が、昨年7月1日に施行されました。改正により従来は5m以上の足場を対象としていたものが高さ2m以上となり、私たちの日々係るボーリング作業現場にもその対応が求められてきたものです。

当協会は省令改正の情報を受け、急遽昨年7月29日に講習会を開催しました。施行日より2年以内の特別教育受講義務と現在業務従事者に対する受講時間短縮の特別処置もあり、午前午後の2講習で計78名と多く方が熱心に受講されました。今年は状況も一段落したとの判断から午前みの開催とし、昨年同様一般社団法人労働技能講習協会より講師を派遣いただきました。会場は池袋の測量地質健保会館大会議室で、協会会員の他8社計37名の出席があり、短い時間ではありましたが受講者の方々の真剣に取り組む姿が印象的でした。

(会長 網代 稔)

当協会では、安衛則改正の施行より2年間の経過措置終了(平成29年6月30日)までに再度、「足場の組立て、解体に関する特別教育」の実施を計画しております。(現在業務従事者向け[短縮3時間コース]、平成29年4～5月頃を予定)

まだお済みでない方は、ご活用下さい。

◎ 平成28年度 東京都・葛飾区・墨田区合同総合防災訓練 (9月4日 於:都立水元公園)

今年の防災訓練は東京都・葛飾区・墨田区合同で、9月4日に葛飾区の水元公園で行われた。当協会は昨年に続く6回目の参加となり、8名の技術委員で対応した。

訓練のシナリオは、同日8時頃、マグニチュード7.3の東京湾北部地震が発生したという想定で、陸上自衛隊・警視庁・東京消防庁をはじめとする関係機関を中心に、他県や米軍、流通業界も含めた大規模なものである。主な訓練は、木造住宅密集地域での火災発生など一般的なもののから、高層住宅からの救助など地域の被害特性に対応した訓練の実施が盛り込まれている。他方、公園外では空港、港湾からの物資の輸送、拠点病院への重症患者の搬送、それぞれの拠点への通信などの訓練も含まれている。

当協会は、水元公園のポプラ並木会場において、一般来場者等を対象に、『防災に関する展示・体験を行い、防災意識の向上を図る』ことを目的とし、液状化実験装置や液状化被害のパネル、また記憶に新しい熊本地震の被害パネルを展示したほか、土地条件図を利用したパソコンでの地盤検索を行った。当日は生憎の曇天であったが、比較的多くの来場者があり、地盤検索をやっていた方には、地形、地質からわかる災害のリスクについて丁寧に説明した。液状化実験装置は特に子供たちが興味深く実験風景を見守り、考えもしなかった素朴な疑問に答えを窮する場面もあった。

来場者は訓練参加者のみならず、水元公園を散歩道としている地元の方々が多く、全体的に液状化の危険度についての質問が多かった。また、熊本地震があったこともあり、地震の起きやすさ、断層の有無、断層と地震の関係など、比較的难度の高い質問もあった。今回の訓練では、住民の方々の災害に対する予備知識として、こうした地盤に纏わる知識をもっていること、それを習得しようという向上心の高さに驚かされた。

(技術副委員長 太田 智之)



◎ 平成 28 年度ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 (秋期・9月30日～10月1日)

この講習会は当協会の地質調査技術の向上に関する事業の一環として東邦地下工機株式会社様(東京都品川区)にご協力いただき毎年春・秋の2回実施している。受講者は協会会員に留まらず、さく井、土壤環境など多方面からニーズがあり、今回は定員いっぱいの49人の申し込みがあり、2名欠席の47名で実施となった。

講師は昨年と同様に当協会、片山浩明理事ほか実技では東邦地下工機殿の職員の方数名によって行われた。

講義内容は、1日目に学科講習、2日目は実技講習に分かれており、学科講義はボーリングマシンに関する知識(基礎知識・構造、運転及び点検・整備)、マシンの運転に必要な一般事項に関する知識(施工・力学と電気)および関係法令・災害事例等である。

学科、実技ともに普段の作業に生かされる内容であり、学科では、関連法規など特別教育の沿革やマシン運転・作業の中にどのような危険性がはらんでいるのか、繰り返し細やかな講義が続いた。実技は、実際のボーリングマシンを3台使い、エンジンの始動時、ロッドの上げ下ろしやマシン操作時に潜んだ危険性等について実践的な講義が行われた。今回は20～30代の受講者、特にマシンを扱うことが初めての初心者が多く、講師の方々の指導、助言で適切な操作を学んでいた。また、危険な場面には講師が容赦なく檄を飛ばし、安全作業の重要性を再確認させていた。

実技講習終了後、2日間受講した全員に修了書の授与が行われ、講習は無事終了した。現場作業での安全・安心を確保するために多くの知識を獲得できる場として、今後も継続して開催していきたいと考えている。

(技術副委員長 太田 智之)



◎ 東京都建設局との意見交換会 (10月11日)

数年前より実現に向け準備を進めてまいりましたが、この度、東京都(建設局)との初めての意見交換会を開催することができました。来年度以降も継続的に行っていく予定にしております。

日時：平成 28 年 10 月 11 日(火) 13:30～15:00

場所：第二本庁舎 31 階特別会議室 26

< 議 事 >

- (1) 東京都建設局の取り組み
- (2) (一社)東京都地質調査業協会の活動状況の説明
- (3) 意見交換会

① 地質調査業協会からの提案議題

I 品格法に基づく低価格入札の防止対策について

〈具体的要望事項〉

- (1) 最低制限価格の設定
- (2) 地質調査業務における総合評価型入札の拡大
(業務難易度に従った採用)
- (3) 現行の総合評価型入札制度の改善
(評価項目の追加等)
- (4) 協会活動による社会貢献活動に対する評価向上
(総合評価型入札での加点要素等)
- (5) 予定価格の入札後公表

II 積算基準の適正な運用と設計図書の明確化

〈具体的要望事項〉

- (1) 発注にあたり、調査目的、調査・試験数量、仕様条件の明確化
- (2) 標準積算基準の適切な運用
- (3) 現地条件等、業務の実状を考慮した適切な積算
(安全対策、仮設等)
- (4) 市場における取引価格や業務実態を反映した適切な積算
- (5) 質問に対する適切な回答
- (6) 業務規模や実状を踏まえた適切な工期設定
- (7) 業務の公表段階における仕様書の公表
- (8) 適切な変更契約の実施
- (9) 情報開示請求(金入内訳書等)に対する適切な対応

III 優良業務等表彰制度の改善について

〈具体的要望事項〉

- (1) 地質調査業務の優良表彰受賞が少ない点について実態解明
- (2) 現状を改善させるための方策についての協議
- (3) 業務の性質を考慮した評価方法のお願い

IV その他

② 建設局からの提案議題

協会各社における担い手の中長期的な育成・確保の取り組みについて

◎第 1 回 土壤汚染調査技術管理者試験対応事前講習会 (10 月 21 日)

当協会の環境部会では、10 月 21 日に土壤汚染調査技術管理者試験対応事前講習会を開催しました。

この講習会は、地盤環境技術研究センター (GETReC) が主催していましたが、GETReC の活動終了に伴い、当協会の技術委員会が引き継ぐことになりました。今回が第 1 回目の開催です。

本講習会は測量健保会館で行いましたが、準備期間の不足など PR 不足もあり、参加人数が思ったよりも伸びませんでした。



21 世紀は環境の時代と言われる中で、土壤環境分野は、社会資本整備を進める上で、非常に重要な分野の一つとなりつつあります。高度経済成長時代の「負の遺産」と言われる土壤汚染を子供たちに残すことは、地質調査を生業とする我々技術者に許されることではありません。

日本は、高度経済成長時代に深刻な公害問題に直面しましたが、それを乗り越えてきました。公害は人間の健康に直ちに害を及ぼしますが、急性被害がほとんど発生しない土壤汚染も見逃してはいけない時代に突入しております。公害対策基本法が環境基本法に変わり、時代は公害問題から環境問題に移行しています。先輩技術者が公害問題への対応で培った技術をわれわれが引き継ぎ、社会に還元する必要があります。

自然由来土壤汚染も土壤汚染対策法の対象となった昨今、目に見えない世界を相手に仕事をしている地盤技術者は、土壤汚染問題に遭遇する機会が増えています。汚染土壤を適正に管理し、人間の健康被害を防止するために、地盤技術者として土壤汚染調査に関する知識は、必須と言っても過言ではありません。

本講習会は、GETReC が長年蓄積した内容を完全に踏襲したものとなっています。土壤汚染調査技術管理者試験受験者はもちろんのこと、すでに資格を取得している技術者、土壤汚染調査に係わる技術者にとっても非常に有益な内容となっています。また講師陣も GETReC 時代に関わった方々を中心に、経験豊かな人が担当しました。

具体的な内容は、以下のとおりです。

1. 土壤・地下水汚染に係る法令
2. 汚染物質の基礎知識
3. 土壤汚染対策法の概要
4. 土壤汚染状況調査
5. 詳細調査と認定調査
6. 措置
7. 運搬
8. 処理
9. 質疑応答

土壤汚染を中心に、地下水汚染も含めて幅広く、かつ深い内容となっています。次回の開催時には、早めにアナウンスしますので、多くの方々が受講されることを切に願います。

(技術委員 照屋 秀治)



◎ 技術ノート取材地を訪ねて

東京の地名と地形 ～根岸・上野・根津～ (10月25日)

10月25日(火)に(一社)関東地質調査業協会との共催による現場技術伝承講習会を開催しました。本講習会は、当協会が平成18年11月に発刊した「技術ノート No.39」のテーマで取り上げた「東京の地名と地形」を題材にした内容となっており、『技術ノート取材地を訪ねて 東京の地名と地形 ～根岸・上野・根津～』と題して開催しました。

今回の講習会は、東京の地名と地形に関する講義を行った後に、講義の対象となった上野界隈の低地と台地を実際に地形踏査したものである。

講義は下記の内容で実施しました。

日時：平成28年10月25日(火) 13:30～16:30

場所：【講義】

日暮里駅隣のホテルラングウッド 3階「桜」

【地形踏査】講義後

下谷～根岸～上野公園～上野桜木～谷中～

根津神社～弥生～池之端～不忍池

(東京低地～上野台～本郷台の低地と台地を地形踏査)

演題：「技術ノート取材地を訪ねて

東京の地名と地形 ～根岸・上野・根津～」

講師：東京都地質調査業協会 技術委員長 西原 聡

参加者は、会員企業から24名(内女性4名)で、大半は20～30代の方でした。

約1時間の講義の後、空模様が若干心配される状況のなかで地形踏査はスタートしました。初めに、東京低地の代表的地名の一つである“下谷”を目指します。この界隈は家屋が密集しており、地形がまったいらで典型的な下町の街並みが続きます。つぎに、柳の街路が続く“根岸”に入り、「崖下の岸部」の名の通り、上野台地の麓の雰囲気が漂います。

根岸から鶯谷駅に向かって一気に上野台地に通じる坂を上ります。台地に上ると付近の景観ががらりと変わり、寺社や博物館が並び「上野公園」へと続きます。上野公園を抜け「上野桜木」で言問通りに入り、「谷中」を経由して上野台を下ります。反対側に本郷台が一望できます。下りきった地名が「根津」で「崖下の港」の名の通り、2つの台地に挟まれた低地の様相を示しています。



根岸柳通り



台地と低地の境を走る山手線



上野台谷中より本郷台を望む

根津の交差点を不忍通り(旧石神井川)に沿って北上し、左側の本郷台に向かった崖下の微高地に「根津神社」があります。根津神社手前の路地に入り、東大地震研に向かう階段を上ると地名が「弥生」に変わる。弥生時代の土器が発見されたことからついた地名で、この時代の人々は、この付近を水際線としていたと思われる。弥生から東大に沿って緩やかな坂を下ると町名は「池之端」に変わる。この付近は不忍池のほとりで、不忍通りを渡ると「不忍池」で前方に上野台(上野公園)が一望できる。



本郷台中腹に位置する弥生土器出土記念碑



不忍池

約2時間(6.5km)の地形踏査であった。

今回は、技術ノートの取材地を実際に自分の足で地形踏査する試みであったが、参加者は普段身近で気が付かない地名が、地形や地質と深く関わっていることが実感でき、全体的には大変好評であったと思います。

次回は技術ノート取材地の内、別の地域での「地形踏査」を企画したいと考えています。

なお、本講習会では、参加して頂いた皆様にCPD 認証2.5ポイントを付与しました。

(技術委員長 西原 聡)



◆ 都内探訪 (風景写真)

聖徳記念絵画館

神宮外苑のシンボリックな建築物 (国の重要文化財)



[撮影：総務委員 松本 喜史 氏]

日本橋 と 日本国道路元標

日本橋 (国の重要文化財)



日本国道路元標 (国の重要文化財)



[撮影：事務局長 前田 美佐男 氏]

■ 会員(正会員・賛助会員) 動静

(1) 住所変更

- ・(株)地盤調査事務所

[新住所]

〒191-0024 東京都日野市万願寺3-50-8

TEL : 042-582-7155 FAX : 042-583-2515

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、
お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。
(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

お店紹介

今回は、昨年9月7日、BS-TBSの吉田類「酒場放浪記」で放送された、お店を紹介します。サラリーマンには縁起の良い“出世不動”通り沿いで、神田駅西口より徒歩3分の場所に在ります。

30年、40年前にタイムスリップした古い店構えで、マスターの母親(元看板娘)の代から半世紀経過したこじんまりとしたくつろげる酒場で、5人ほど座れるカウンターとテーブル2卓の小さな店です。

お勧めは、毎日、築地より仕入れている魚の刺身、焼き魚・煮魚で、注文を受けてから調理します。魚の他にも大変美味しい料理が沢山ありますのでマスターにお聞きください。その間は、焼酎(赤霧島、黒霧島)、日本酒が進みますが、最後の締めは財布に優しい値段で済みますので、協会からの帰りはお立ち寄りをお勧めします。

店名 神田「あい津」

住所 千代田区内神田2-8-1

電話 03-3252-1371

営業 月～金 午後0時～午後2時

午後5時～午後11時半

定休日 土曜(夜のみ営業) 日曜・祝日

▲ 行事日程

日程	行事名・内容等
12月5日	(関東) 関東地方整備局との意見交換会
1月17日	(関東・全地連) 新年賀詞交歓会
3月予定	(関東・東京) (仮) 防災展2017(東京都防災展)
4月7日, 8日	(東京) H29 年度 ボーリング講習会(春)
5月予定	(東京) 第33 回定時総会
5月17日	(関東) 第3 回定時総会
4～5月頃	(東京) 足場の組立て, 解体に関する特別教育

・ 編集後記 ・

東京都心では、11月としては54年ぶりの初雪を観測したほか、明治8年統計開始以降、初めての積雪を観測しました。まさに世界が変わる前兆かもしれません。

最近買い物時に、「日本ブランド」を目にします。「匠の技」・「高品質確保」など流通業界も「お金だけでない価値」をPRしています。

われわれ建設業界にも「PR」するヒントがないか考えてしまいます。

先日、東京の魅力を知るために、「はとバス観光」の『おいらん道中とお寿司食べ放題』に参加しました。なかなか一般的な観光と違い、新しい東京の魅力を知りました。また、驚いたのが、①参加者の多さ ②多くのコースがある ③効率的である。

みなさんも「はとバスツアー」お勧めです。(早めの予約を！)

(Y.M)

東地協ニュース 2016.12 第31号

発行・編集 一般社団法人東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp